

激励の言葉

富山県教育委員会学校教育課

指導主事 藤 井 修 二

今年度より、藤縄部会長、地元県総合教育センター所長をはじめ多くの方々のご尽力や、情報科を担当する先生方の熱意により富山県高等学校教育研究会に情報部会が新設され、このたび第1号となる研究紀要が発刊されることを心からお祝いいたします。

国では、世界最先端のIT国家を目指すe-Japan戦略を推進しており、その中の重要な施策として情報教育をとらえています。平成15年度から高等学校で教科「情報」の授業が開始され、21世紀の高度情報通信ネットワーク社会に対応した情報教育が本格的に開始されました。県は、今年度より全県立学校が「とやまマルチネット」による高速化が実現し、「教育ネット」によるネットワークの安全性の向上が果たされています。また、教員研修については、平成12年度から3年間新教科情報現職教員等講習会、平成15年度からは新規採用試験を実施するなど一層の充実を図っているところであります。

現在のコンピュータやインターネットなどからなるIT技術の進歩と普及は急激で、これほど使い方が質的に変化したメディアは、他に比べるものがありません。コンピュータが情報を「処理」する特別な機器であった時代は終わっています。コンピュータの原理を教えプログラミング言語を教える教育も、ワープロや表計算などのソフトウェア操作を教える教育もはや時代遅れと言わざるを得ないのではないでしょうか。情報を「処理」することから身を引いて考えてみると、情報ははるかに幅広い広がりをもっていることに気づきます。情報はこれまでになく高速・広範に伝達され、蓄積・利用されます。「処理」というプロセスだけで捉えることのできない活動が必要です。すなわち情報教育によって、人間の知的活動そのものを高度化するよう実践的に学ぶ基礎を身に付けるようにならないと考えると、情報教育は、社会を生き抜く力としての情報活用能力の育成を目的としております。単なる技術や知識の習得で終わるものではありません。

情報科教員には、多面的な問題解決能力の育成が重視されること、携帯電話やインターネットが絡んだ子どもたちの痛ましい事件や犯罪が急増することなどから著作権や情報モラルの的確な指導が求められます。さらに、今後、一部の国立大学の情報関係学部等での大学入試への導入も予定され、学習指導法や学習内容の蓄積と共有するなどの課題が多くあります。情報部会におかれては、会員相互の連絡を活発化させていただき、草創期から成熟期へと脱皮するためにも、より一層のご努力に期待しております。

おわりに、情報部会を運営しておられる役員の方々に感謝いたしますとともに貴会のますますの発展とご活躍をお祈り申し上げます。

平成17年3月24日